

九州大学海外派遣留学生 最終報告書

- ※ 交換留学期間終了後 15 日以内に提出してください。
- ※ 提出された情報は、海外留学 HP に掲載します。(色のついた部分は掲載しません)

留学先大学名	シンガポール国立大学 (国名:シンガポール)	
留学先学部名(またはプログラム名)	Faculty of Arts and Social Science	
留学期間	2016 年 8 月 ~	2017 年 5 月
学部/学府・年次	法 学部/学府	4 年次~ 4 年次
留学により卒業または修了が遅れる見込みの有無とその期間	⑥・無 (期間:1年間)	
遅れる見込みの方はその理由を書いてください (NO.に○印をつける)	①. 4年次に留学したため ②. 単位が不足するため ③. 新卒で就職したため	
	4. その他(具体的に記入)	
卒業を遅らせないためにどのような配慮や工夫をしましたか?		
進路の予定	①. 就職 (時期: 4月から / (2018)年 (4)月から) ②. 大学院進学(大学 学府/研究科) ③. その他(具体的に:)	
前項で1と答えた方は、就活時期と方法を教えてください(予定を含む)	就活時期:2017 年 3 月~2017 年 6 月(予定) 3月に行われた企業説明会には参加出来ていない。4月から留学先でエントリーシートを提出していた。5月からセミナーや1次選考が始まった。	
進学先や就職先の選定に、留学経験が影響しましたか?	少し影響した。	
留学経験は就職活動の際に役立ちましたか?	役に立った。	
1. 留学先大学について		
授業(カリキュラム等)の概要について	授業は前期(8月~11月)と後期(1月~4月)に行われる。また、各学期には Recess Week と Reading Week という期間が約 1 週間設けられており、この期間中は休講となる。Recess Week は学期の半ばにある一方で、Reading Week は授業最終週の後にある。試験に関しては、期末試験は Reading Week 後に行われる。また、授業によっては中間試験を行うものもあり、だいたい Recess Week の前後に行われる。授業自体は基本的に Lecture と Tutorial で構成される。Lecture は講義を指す一方で、Tutorial は少人数で議論を行うものを指す。ただし、言語科目など一部の授業には Tutorial は含まれない。課題は、リーディングやプレゼンテーション、グループエッセイなどがある。	

<p>留学先大学のサポート体制について (語学面／勉学面／精神面／住居・生活面など)</p>	<p>留学生が新しくシンガポールで生活を始めるに当たって、大学側は様々なイベントやプログラムを準備しているため、サポート体制は十分に整っている。そのため、シンガポールに来たばかりの留学生にとって、その国の文化を知ったり交友関係を築いたりする上で特別困難を感じることは少ないと思う。例えば、私の場合は Host Family Programme がシンガポールでの生活に慣れ親しむための助けとなった。このプログラムはホームステイとは違い、シンガポール居住の家族が留学生のために、街中を案内したりシンガポールで特徴的な食事を紹介したりする、というものである。ホストファミリーにもよるが、私の場合は月に 2 回ほど一緒に行動を共にした(※このプログラムは申込者全員が参加出来るというわけではない)。こうしたイベントやプログラムは大学から送られてくるメールをチェックして申し込む。</p> <p>大学の学習環境については、自習スペースが大学の屋内外に数多く用意されていたり、特に試験前になると図書館が 24 時間解放されたりするなど、良く整っていると思う。語学面に関しては、期末試験に際して、英語を母国語としない国の出身者は辞書の持ち込みを申請することが出来る。</p> <p>シンガポールでの住居は、大学側で寮が複数用意されており、留学前に希望を出すことが出来る。</p> <p>学生の精神的なサポートについては、定期的にメールでカウンセリングのお知らせが届いていたが、それを利用したことが無いので内容についてはよく知らない。</p>
<p>留学先大学に対する感想</p>	<p>アジア No.1 の大学というだけあって、学生の勉学に対する意識が非常に高く、またその学力の高さにとっても刺激を受けた。特に、日常的に見られる物事を抽象的な概念に落とし込む力が高い点に学ぶところが多かった。また、前述した Tutorial では学生間でグループを作りプレゼンテーションを作成することもあったが、同じグループになった現地学生の仕事の速さには目を見張るものがあった。</p> <p>アジアから欧米まで幅広い学生と交流する機会が多く提供されており、国際性を養うにはもってこいの大学である。</p>

<p>同じ大学への留学を希望する人々へのアドバイス</p>	<p>シンガポールに留学して始めに直面する問題として、シングリッシュが聞き取り辛いことがある。これは英語を母国語とする欧米人にとっても多少聞きづららしく、ある程度は覚悟していた方がいいかもしれない。ただ、Lecture で先生の話す英語は比較的聞き取りやすく、中には欧米出身の先生もいるので、Lecture 中の英語に関してはそこまで心配いらないと思われる。</p> <p>基本的に現地学生はとても親切なので、勉強面や生活面で何か困ったことがあったらまず相談してみることが大切である。特に、もしシングリッシュの聞き取りが難しければ、シンガポール人と共同作業する際に、そのことをしっかり明らかにしておくことが大事だと思う。例えば、Tutorial のグループワークで話し合いをする際に、シンガポール人の学生同士で話が始めた途端、話す速度が早くなり、度々話し合いについていけないことがあった。ただし、こちらから質問さえすれば丁寧に説明してくれるので、先述した通り困ったらすぐに相談することが大切である。</p>
-------------------------------	---

2. 事前手続き(ビザ申請など)

<p>ビザの種類</p>	<p>Student Pass</p>
<p>ビザ申請先</p>	<p>ICA (Immigration and Checkpoints Authority)</p>
<p>必要書類、手続き方法</p>	<p>必要な書類はメールに添付されて送られてきた。</p> <p>ビザの申請は、まずはオンラインで行う。その後、書類を揃えて大学にて提出することができる。ただし、書類の不備等でこの機会に申請が上手くいかなければ、次は自分で直接上記の ICA に直接提出しに行く必要がある。</p>
<p>手続きに要した時間</p>	<p>約1日</p>
<p>その他必要な事前手続き</p>	<p>特になし。</p> <p>必要書類で注意すべきこととしては、健康診断書は全て英語で作成したものでなければ受け付けられないことが挙げられる。キャンパスの中の University Health Center で再度健康診断を受けることで、英語の健康診断書を発行してもらえる。</p> <p>証明写真は、中央図書館の近くにある証明写真機で撮ることが出来る。もし写真のデータが欲しければ、街中の FujiFilm の店舗に行く必要がある。</p>

<p>お金の管理や受け取り（銀行口座開設や海外送金、またはクレジットカード持参など）について、貴方の留学先国で最も適当な方法を教えてください。</p>	<p>お金の引き出しはクレジットカードのキャッシングを利用して行っていた。そのため、シンガポールに新しい銀行口座は開設していなかった。ただ、周りには銀行口座を開設している日本人もいたので、お金の管理方法はどちらでも良いと思う。クレジットカードは、キャッシングができるものを2枚(VISAとMasterCard)持参した。</p>
---	--

4. 住居、生活環境

<p>住居の種類(○印をつける)</p>	<p>・<input checked="" type="radio"/> ・ホームステイ ・民間アパート ・その他()</p>
<p>住所／電話番号</p>	<p>Prince George's Park Residence (Semester1) 27 Prince George's Park Residence, 118425 Utown Residence (Semester2) 36 College Ave E, 138600</p>
<p>費用(月額)</p>	<p>Prince George's Park Residence: 4万円 Utown Residence: 6万円</p>
<p>どのようにして見つけたか</p>	<p>大学のホームページで見つけた。</p>
<p>次期留学生に推薦できるかどうか、およびその理由。</p>	<p>上述した2つの寮の内、お薦めできるのは Utown Residence だが、Semester1 から留学する場合は定員オーバーで入れない可能性がある。生活環境は十分に整っており、日常生活で困ったことはほとんど無く、ルームメイトとも程良い距離感で交流でき、とても満足した。一方で Prince George's Park だが、もし寮内での学生間の交流を期待しているならここはお薦めできない。生活環境は Utown Residence に比べれば少し劣るが、一応十分に暮らすことは出来た。</p>
<p>留學生活を送る上で次期留学生に伝えたい地域情報、生活情報</p>	<p>シンガポールの街中には、東南アジアを中心とした様々な国の文化を表すものが多く見受けられる。中華系やインド系など、住む人によって、地域自体も様相がガラッと変わる点など、なかなか日本にはなかなか無い景観を目にすることが出来る。交通機関が便利なので、気軽に街中を散策することが出来る。</p>

5. 準備段階や留學中に役に立ったウェブサイト

サイト名	URL	コメント
------	-----	------

NUS Mods		時間割を作成する際にとても役に立った。
6. その他の特記事項		